

ヒトパピローマウイルス感染症予防接種説明書

【予防接種の対象となる病気】

◆ヒトパピローマウイルス感染症

ヒトパピローマウイルス（HPV）は、ヒトにとって特殊なウイルスではなく、多くのヒトが感染し、そしてその一部が子宮頸がん等を発症します。100種類以上の遺伝子型がある HPV の中で、子宮頸がんの約50～70%は、HPV16、18型感染が原因とされています。

【組換え沈降ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン（不活化ワクチン）】

2価ワクチンと4価ワクチンがあります。HPV未感染者を対象とした海外の報告では、感染及び前がん病変の予防効果に関して、両ワクチンとも高い有効性が示されており、初回性交渉前の年齢層に接種することが各国において推奨されています。

また、ワクチン接種を受けた場合でも、免疫が不十分である場合や、ワクチンに含まれている型以外の型による子宮頸がんの可能性はあり得るので、定期的子宮頸がん検診を受けることが大切です。

【副反応】

注射部位の疼痛、発赤、膨脹などの局所反応と、軽度の発熱、倦怠感などの全身反応が報告されていますが、その多くは一過性で回復しています。また予防接種後に血管迷走神経反射として失神があらわれることがあります。接種後、30分程度、体重を預けられるような場所で座らせるなどしたうえで、なるべく立ち上がらないようにし、接種者の状態を観察する必要があります。

【副反応がおこった場合】

予防接種のあと、まれに副反応のおこることがあります。また、予防接種と同時に、他の感染症がたまたま重なって発症することがあります（まぎれ込み反応）。

予防接種を受けた後、接種部位のひどいはれ、高熱、ひきつけなどの症状があったら医師の診察を受けてください。お子さんの症状が予防接種後副反応報告基準に該当する場合は、医師から町へ副反応報告が行われます。ワクチンの種類によっては、極めてまれ（百万から数百万人に1人程度）に脳炎や神経障害などの重い副反応が生じることもあります。このような場合に厚生労働大臣が予防接種法に基づく定期の予防接種によるものと認定したときは、予防接種法に基づく健康被害救済の給付の対象となります。

【予防接種を受ける際に注意しなければいけないこと】

予防接種は体調のよいときに受けるのが原則です。日頃から保護者の方はお子さまの体質、体調など健康状態によく気を配って下さい。

以下の注意を守って、安全に予防接種が受けられますよう、保護者の皆様のご協力をお願いいたします。

①当日は、朝からお子さまの状態をよく観察し、ふだんと変わったところのないことを確認するようにしましょう。予防接種を受ける予定であっても、体調が悪いと思ったら、かかりつけ医に相談の上、接種するかどうか判断するようにしましょう。

②受ける予定の予防接種について、通知書をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解しましょう。

③母子健康手帳は必ず持って行きましょう。

④予診票は、お子さまを診察し接種する医師への大切な情報です。保護者の方が責任をもって記入してください。

【予防接種を受けることができない人】

- ①あきらかに発熱している人（37.5℃以上の熱がある人）
- ②急性疾患にかかっていることがあきらかな人
急性の病気で薬を飲む必要がある人は、その後の病気の変化もわかりませんので、その日は接種を見合わせましょう。
- ③予防接種に含まれる成分で、アナフィラキシーをおこしたことがある人
「アナフィラキシー」とは、接種後約30分以内に起きるひどいアレルギー反応をいいます。発汗、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出るほか、吐き気、嘔吐（はく）、声が出にくい、息が苦しい等の症状に引き続きショック状態になるような激しい全身反応のことでです。
- ④その他、医師が不適当な状態と判断した場合は、受けられません。

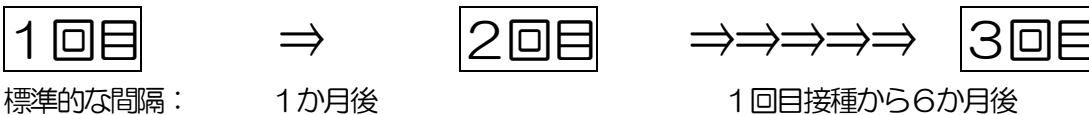
【予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなくてはならない人】

- 必ず主治医に前もって診察してもらい、意見書をもらってきて下さい。
- ①心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気や発育障害などで治療を受けている人
 - ②前に受けた予防接種で2日以内に発熱、発疹、じんましんなどのアレルギー反応と思われる異常をおこしたことがある人
 - ③今までに、けいれんを起こしたことがある人
けいれんのおこった年齢、その時の発熱の有無、その後の経過などによって、条件が異なります。主治医に事前によく相談してください。
 - ④過去に免疫不全の診断がなされた人および近親者に先天性免疫不全症の人がいる人

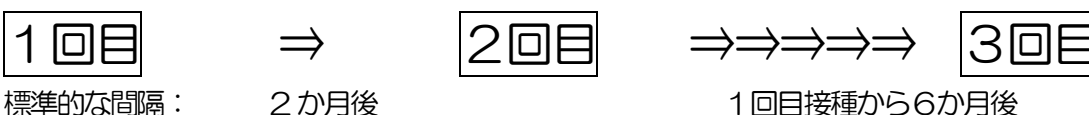
【接種時期】

《標準的な接種回数とスケジュール》

★サーバリックス(2価7クチン):3回



★ガーダシル(4価7クチン):3回



【7クチンについての注意】

※3回の接種は全て同一ワクチンにより接種してください。異なったワクチンを併用して接種することは、その効果及び安全性が確認されていません。

HPV ワクチンは、積極的におすすめすることを一時的にやめています。

※HPV ワクチン副反応について、平成25年6月14日に開催された専門家の会議において、「ワクチンとの因果関係を否定できない持続的な疼痛が、HPV ワクチンの接種後に特異的にみられたことから、この副反応の発生頻度等がより明らかになり、国民に適切な情報は提供ができるまでの間、定期接種を積極的に勧奨するべきでない」とされ、現在も積極的な接種勧奨の差し控えが継続しています。

今回の「積極的な接種勧奨の差し控え」により定期接種を中止するものではありません。定期接種の対象の方が接種を希望される場合は、この説明書と別紙1シートをご一読のうえ医師とご相談いただきますようお願いいたします。

お問い合わせ先：壬生町こども未来課母子保健係 電話81-1887